

■ジャコバン誌はゾーラン・mamダニの台頭を最初から追ってきた

ニック・フレンチ

[2020年の州議会選挙勝利直後の初インタビューから、人物紹介、論説、インタビュー、演説に至るまで、ジャコバン誌は社会主義運動に根ざしたゾーラン・mamダニの政治キャリアをその始まりから密接に追ってきた。](#)

今夜遅くには、民主社会主義者ゾーラン・mamダニが次期ニューヨーク市長となることが明らかになるだろう。34歳の州議会議員が民主党候補指名を獲得し選挙戦の最有力候補となつて以来、このほぼ無名の候補者―1年前の出馬表明時には支持率1%だった―は、ニューヨーク市民やアメリカ国民に広く知られるようになった。しかし『ジャコバン』誌はゾーランの選挙運動を最初から追ってきた。

実際、我々は彼がニューヨーク州議会議員選挙で勝利した2020年以降、この次期市長候補に関する記事やインタビューを掲載し続けてきた。2021年に彼が就任した直後、我々は[mamダニ氏にインタビュー](#)した。これはジュリア・サラザールと共に州議会に初当選した民主社会主義者たち―彼自身、ファラ・スフラン・フォレスト、マルセラ・ミタイネス、ジャバリ・ブリスポートを含む―の波の一環として行われたものだ。

その後も、mamダニ氏が州議会で活動する間、私たちは彼との接触を続けた。その間、民主社会主義者同盟(DSA)が支持する[オールバニ](#)の勢力は拡大し、社会主義者たちはニューヨーク市議会に[足場](#)を築いた。2021年8月、アンドルー・クオモが州知事を辞任した直後、ゾーランは、ニューヨーク州の[クオモ後の未来](#)について、なぜ希望を持っているのかを説明し、「アンドルー・クオモが州知事でなくなった今、ニューヨークにはさらに多くの可能性が広がっている」と語った。

▼2021年の『ジャコバン』誌のインタビューで、ゾーラン・mamダニ氏は「アンドルー・クオモが知事ではないニューヨークができたことで、さらに多くのことが可能になった」と語った。

州議会議員時代、mamダニは、パレスチナ人の権利の強力な支援、公共財への十分な資金提供、富裕層への課税など、市長選挙運動の中心となった多くの問題を擁護した。2022年、彼は『ジャコバン』誌に、[無料バス](#)の導入案など、ニューヨーク市の公共交通機関の改善に関する彼のビジョンについて語った。2023年の夏、ゾーランとブリスポートは、「Not on Our Dime」法案を提出した。この法案は、西岸地区における違法なイスラエル人入植地に資金援助を行っているニューヨークを拠点とする非営利団体の非課税ステータスを取り消すというものだ。『ジャコバン』は、この[キャンペーンを広範囲](#)に取り上げており、その中には、この法案とガザ支援の主張に対する報復として、[イスラエルロビー](#)がmamダニ氏や他の社会主義者たちをオールバニから追放しようとしたが失敗に終わったことも含まれている。

また2023年には、[mamダニ氏へのインタビュー](#)を行い、彼が提出した別の州法案「不当な資産蓄積の廃止と適切な投資法(REPAIR法)」について取り上げた。この法案はコロンビア大学と二

ニューヨーク大学の免税特権を廃止し、年間数億ドルの税収を創出することを目的としていた。これにより近年緊縮財政で資金不足に陥っている公立大学システム「シティ大学ニューヨーク」への資金供給が可能となる。

我々はゾーラン・マムダニがニューヨーク州議会議員選挙で勝利した 2020 年以降、市長候補としての彼に関する記事やインタビューを掲載し続けている。(Adam Gray / Bloomberg via Getty Images)

●民主党指名獲得への道

ゾーラン自身が『ジャコバン』誌の寄稿者となったのは 2024 年 9 月、連邦政府がエリック・アダムズ市長に対する汚職起訴を公表した直後、同市長が[即時辞任すべき](#)と主張する論説を執筆した時である。自身の市長選運動の核心テーマを予見するように、マムダニは[こう記した](#)：

「ニューヨークの労働者家庭は家賃、光熱費、保育費、食料品代に血を搾り取られている。彼らこそがこの街から追い出されている—そして価格つり上げ業者に支えられた政治家たちは事態をさらに悪化させるだけだ。我々は労働者階級に権力を取り戻し、この街での生活を「住みやすい」だけでなく「良い」ものに変える変革的政策を実現する政治運動をこの街で築かねばならない」。

ゾーランは翌月、市長選出馬を表明。その際、ジャコバン誌のコラムニスト、ライザ・フェザーストーンとの独占[初インタビュー](#)でこう語った(当時、フェザーストーンが指摘したように「マムダニの当選可能性は高くない」と誰もが考えていた時期である)。

我々はその後、市長選を注視し続けてきた。ゾーランが民主党予備選において、当選の可能性が低い候補から[有力な対抗馬](#)へと台頭する軌跡を追ったのだ。この選挙運動は、ニューヨーク市における[自治体社会主義の歴史](#)について深く考察する契機となった。歴史家ジョシュア・フリーマンは、圧倒的な人気を博した社会民主主義者[フィオレロ・ラ・ガーディア市長](#)を、潜在的なマムダニ政権の教訓源として考察した。

▼ゾーラン・マムダニ『ジャコバン』誌寄稿：「ニューヨークの労働者家庭は家賃、光熱費、保育費、食料品代によって搾取されている」

ゾーランの選挙運動がこれほど成功した理由を、[手頃な価格](#)という大衆的な焦点から、大規模な[選挙運動](#)、バーニー・サンダースに触発された[コミュニケーション戦略](#)、そして重要な[労働組合](#)を味方につけた成功まで、分析した。マムダニは幅広い有権者の支持を得ています。その理由の一部は、[我々が主張したように](#)、「警察の予算削減」のような疎外感を与える左翼的なトリックを捨て、「論争の的となるトピックについて、進歩的で普遍的な立場を説得力を持って表明した」ためだ。

予備選挙期間中、私たちは対立候補であるアンドルー・クオモ氏にも批判的な目を向け、彼のグロテスクで[スキャンダルに満ちた過去](#)を読者に思い起こさせ、市長選に出馬しているにもかかわらず、[ほとんど公の場には姿を見せない](#)ことを指摘した。しかし、民主党の権力層による公式記録紙であるニューヨーク・タイムズ紙は、[マムダニ氏に対する](#)中途半端な攻撃記事で、事実上クオモ氏を支持することを止めなかったと私たちは指摘した。

●ニューヨーク市の社会主義市長？

ゾーランの衝撃的な予備選挙勝利の後、私たちは、[左翼](#)、そして[民主党](#)が、この選挙戦の成功から[どのような教訓](#)を得られるかについて、いくつかの考察を発表した。DSA ニューヨーク支部リーダーたちは、長時間のインタビューの中で、[DSA が](#)この勝利に果たした重要な役割について説明した。また、マムダニ市長就任の可能性が高まるにつれ、ゾーランが市長として直面する課題と、彼と支持者がそれらに立ち向かう方法についても掲載してきた。

マムダニ自身が『ジャコバン』の寄稿者となったのは 2024 年 9 月、連邦政府がエリック・アダムズ市長に対する汚職起訴を明らかにしたことを受け、アダムズは直ちに辞任すべきだと主張する論説を執筆した時である。(Bingjiefu He)

ジャコバン寄稿者らは、ビジネスエリートや保守派・「穏健派」政治家による政策への反対を克服するには、マムダニが[労働組合](#)を含む強力な[草の根組織](#)の積極的な支援を得るとともに、州内での政治的同盟を構築し、[支持基盤を拡大](#)する必要があると論じている。社会運動学者である[ピーター・ドレイアー](#)と歴史家である[シェルトン・ストロムクワイスト](#)は、ゾーランと彼の運動に助言を与えるため、ニューヨークやその他の地域における進歩主義的かつ社会主義的な市政の歴史をそれぞれ掘り下げた。

ドナルド・トランプ大統領が、社会主義の候補者を[阻止](#)したい、そして、マムダニ氏が当選した場合、連邦政府の資金援助を打ち切り、彼の政権が移民・関税執行局に協力しない場合は、ゾーラン氏を逮捕し、[国外追放](#)する可能性があるなど、あらゆる手段を講じてマムダニ氏の市長職を弱体化させたいという[ますます明確な](#)シグナルについて、私たちは報じてきた。7 月、法学教授のアジズ・フク氏は、マムダニ氏とその同盟者が、トランプ政権によるこのような財政的・法的攻撃に[どのように対応](#)すべきかについて、いくつかのアイデアを提案しました。

ゾーラン氏は予備選挙でバーニー・サンダース氏およびアレクサンドリア・オカシオ・コルテス氏の支持を得て、米国で最も有名な 2 人の民主社会主義者が引き続き彼の選挙運動を支援している。9 月には、マムダニとサンダースがバーモント州選出上院議員の母校であるブルックリン大学で合同集会を開催。このイベントはバーニーからゾーランへの[バトンタッチ](#)を象徴するもので、ゾーランはオバマ後のアメリカ左派選挙運動の旗手として、運動の約束と課題を継承した。同氏による演説([全文を掲載](#))および 10 月にニューヨーク州司法長官レティシア・ジェームズ氏とともに開催した集会での演説([全文を掲載](#))で、マムダニ氏は、この選挙を「民主主義と寡頭政治のどちらを選ぶか」という選択だと表現した。

マムダニ氏の民主党指名獲得は、明らかに党幹部を驚かせた。しかし、予備選挙以降、米国下院少数党院内総務のハキーム・ジェフリーズ氏、ニューヨーク州議会議長のカール・ヒースティ氏、ニューヨーク州上院多数党院内総務のアンドレア・スチュワート・カズンズ氏、キャシー・ホッフル州知事など、ますます多くの著名な民主党員がゾーラン氏を支持している。先月、AOC氏やサンダース氏も参加した大規模なマムダニ氏の[選挙集会](#)で、ホッフル州知事が演壇に立って演説すると、スタジアム全体から「金持ちに課税せよ！」という野次が沸き起こった。ホッシャル氏や他の民主党指導者たちとマムダニ氏との不安定な同盟は、ジェフリーズ氏やチャック・シューマー氏のような既成勢力がその役割を事実上放棄した一方で、社会主義者のゾーラン氏、AOC、バーニー氏が党の人気者となり、トランプ氏に対する[反対勢力](#)の事実上のリーダーとなっていることを物語っている。その夜、13,000人の支持者を前にした演説([全文を掲載](#))で、マムダニ氏は、自身の選挙運動と手頃な価格を求める闘いを、「すべての人の自由」の獲得という観点から表現した。

ゾーランの台頭は、新しい選挙連合の台頭も反映していると、コーリー・ロビンは[主張する](#)。彼は、その有権者層について、「移民、労働者階級、その多くは南アジア出身者、イスラム教徒、学生、賃貸住宅居住者、債務者など」と記しており、彼らは生活費に苦しんでいるが、パレスチナ人やその他の帝国主義や植民地主義の犠牲者の窮状にも道徳的に心を動かされていると述べている。

しかし、パレスチナ問題だけが、マムダニが過去の政治に決別する分野ではない。ロビンは、ドナルド・トランプ、エリック・アダムス、アンドルー・クオモの深く絡み合った腐敗は、「一部は寡頭政治、一部は性的捕食者クラブである支配階級の中に定着した、[より大きな無法状態](#)」の象徴であると主張している。つまり、違法な自己取引、詐欺、そして明らかに免責された性的暴行に関与する経済・政治エリートである。クオモはアダムス、そして事実上トランプ自身からも支持を受けている。マムダニの原則的な民主社会主義政治は、この恥知らずな寡頭政治への挑戦である。

市長選挙も最終段階に入り、マムダニはニューヨーク市内で精力的に選挙運動を展開している。先週後半、ラガーディア空港とクイーンズ地区の病院で深夜勤務の労働者たちに語りかけるマムダニ（主要候補がめったに接触しない労働者層、ましてや深夜勤務中に）に同行したアレックス・プレスは、彼の労働者階級への訴求力とマムダニ市長が成し得る可能性について考察した。

世論調査が正しければ、ゾーラン・マムダニは本日の選挙で寡頭政治を打ち破るだろう。『ジャコバン』誌は、無名の州議会議員から市長選の有力候補へと至る彼の政治的軌跡を追ってきた。我々もまた、今後の展開をここで追っていく。

■ゾーラン・マムダニ:「ニューヨーク市は売り物ではない」

ゾーラン・マムダニ

土曜日にブルックリンで行われたバーニー・サンダース氏とのタウンホールミーティングで、ゾーラン・マムダニ氏はバーニー氏が「私の政治を表現するための民主社会主義の言語を与えてくれた」と語り、支持者に対し選挙後も組織化を続けるよう呼びかけた。彼のスピーチをここに転載する。

以下は、5月6日土曜日、ニューヨーク州ブルックリンのブルックリン・カレッジで行われたバーニー・サンダース上院議員との選挙イベントで、ニューヨーク市長候補のゾーラン・マムダニ氏が行った紹介演説の書き起こしです。発言は明瞭性を考慮して若干編集されています。

※ ※ ※ ※ ※ ※

バーニー・サンダース上院議員と並んでここにいられることを光栄に思います。バーニーが私にとってどんな存在であったかをお伝えしたいと思います。

2016年のバーニー・ブラウンの大統領選挙運動が、私に民主社会主義という表現方法を与えてくれました。そして、2019年10月19日に行われたバーニーのクイーンズブリッジ集会は、州議会選挙における私の最初の政治イベントとなりました。

バーニーと彼のチームはそのことを知りませんでした。私たちは彼の集会に参加するために行列を作っていました。1ドル、5ドル、10ドル、メールアドレスなど、何でも募りました。そして集会会場へと足を踏み入れた時、この街のあらゆる行政区と共に、キャンペーンと運動が生まれ変わったという、電撃的な感動を覚えました。

そしてバーニーが AC/DC の「バック・イン・ブラック」に合わせてステージに登場した時——そこにいた皆さんは覚えているでしょう——私たちは可能性が人生の真実であるかのように感じました。彼の選挙運動は、私たち多くの人々にインスピレーションを与え続けました。そして、その後何ヶ月も州議会議員選挙に立候補していた間も、私たちは選挙政治において私たちがやりたいことの羅針盤として、彼と彼の選挙運動、そして彼のビジョンに頼り続けました。

そして、ニューヨークの一般市民はニューヨーク州議会選挙にそれほど関心がないものの、バーニーの討論会を観戦するパーティーを開けば、ついに彼らを惹きつけられるだろうと分かっていました。「バーニーに関する討論会だ」と言えば、彼らを惹きつけることができたのです。

私がこの話をするのは、ここにいる多くの人にとって、同じような経験だと知っているからです。長い間、見つけるのは不可能だと言われてきた運動、キャンペーン、政治の中に、自分自身を見つけるという、同じような経験です。私たちは、一人ひとりが尊厳ある人生を送るための闘いが、この国中で非常に大きな共感を呼んでいることを知っています。

私の政治観を表すために民主社会主義という言葉を私に与えてくれたのは、2016 年のバーニーの大統領選挙運動でした。

ここにいる皆さんの多くは、私を含め、バーニーを初めて知ったのは上院議員、大統領候補としてでした。しかしそれ以前は、バーリントン市長を 4 期務めました。そして、ロナルド・レーガンが大統領選だけでなくバーモント州でも勝利した同じ年に、バーニーは 30 代で民主社会主義者として、長年にわたり実力と知名度を誇っていた人物、つまり名字の発音に苦労していた人物と対決しました。いくつかの共通点があります。

バーニーは 10 票差で勝利しました。そしてまた勝利し、またまた勝利し、そしてまた勝利しました。

バーニーの選挙運動だけでなく、統治のモットーは「バーリントンは売り物ではない」でした。このモットーこそが、企業の強欲に抵抗し、シャンプレーン湖のウォーターフロントを単なる利益の証ではなく、働く人々への投資の可能性を示す生き生きとした証へと変えようと尽力した彼の原動力でした。手頃な価格の住宅を求めて闘った時も、機能不全の固定資産税制度に立ち向かった時も、そして市政が尊厳を自らの責任として理解することのあり方を示し続けた時も、彼はこのモットーに突き動かされました。

バーニーはまさにそのように戦いました。そして私たちは、「バーリントンは売り物ではない」というモットーが、今日の私たち自身の闘いにも反映されていることを知っています。「ニューヨーク市は売り物ではない」と言わざるを得ないのです。

「バーリントンは売り物ではない」というこのモットーは、私たちが「ニューヨーク市は売り物ではない」と言わざるを得ない今日の闘争にも反映されています。

ニューヨーク市はドナルド・トランプの億万長者の寄付者には売られていない。ドアダッシュのような企業にも売られていない。アンドリュー・クオモのような腐敗した政治家にも売られていない。

バーニーはこの運動を率い続け、「バーリントンは売り物ではない」運動から、全米各地で寡頭政治への反撃まで、あらゆる闘いを繰り広げてきました。寡頭政治への闘いだけでなく、民主主義のための闘いは、全米の数万人のアメリカ人を鼓舞してきました。政治は、権威主義への拒絶だけでなく、可能性への信念も持ち合わせた、ごく普通の人々によって動かすことができるものだということを、改めて示したのです。

バーニーの素晴らしいところの一つは、彼が政界にいたどの年を見ても、同じことを言っていることです。(マイケル・M・サンティアゴ / ゲッティイメージズ)

寡頭政治がまさにここニューヨーク市に影響を与えていることは、私たちは知っています。ドナルド・トランプが「ビッグ・ビューティフル・ビル」を成立させた時、アメリカ政治史上最大の富の移転を成し遂げたのですから。彼の法案は、何百万人もニューヨーク市民を医療保険から追い出すことになります。食料品価格の引き下げを訴えて選挙運動をしていたトランプにとって、この法案は最も飢えに苦しむ人々のための SNAP（特定保健サービス）の給付を削減することになります。そして、これらすべては、既に使い道がわからないほどの富を持っている人々に、さらなる富を与えるためのものです。

これが、私たちがここで目にしている闘いです。労働者階級への攻撃は、ドナルド・トランプ氏の二期目の政権獲得に貢献した億万長者の寄付者たちを豊かにするために、互いに絡み合っています。これこそが、今この瞬間、私たちを国中で一つに結びつけている闘いです。この闘いを通して、私たちは、ここは自分たちで市長を選ぶ街なのだと明確に認識するのです。

ドナルド・トランプでも、ビル・アックマンでも、ドアダッシュでもありません。私たちが市長を選ぶのです。

この戦いは容易なものではないことを私たちは知っています。バーニーがバーリントンを率いていた当時も、決して容易な戦いではありませんでした。毎日、あらゆる努力を尽くして戦ったのです。

投票したらあなたの仕事は終わったと誰かに言われたら、それはまだ始まりに過ぎないと言いましょ。

この闘いを続ける決意はありますか？ はっきりさせておきたいのですが。私たちは 11 月に投票に行こうというメッセージを伝えるためだけにここにいるわけではありません。もちろん、それは極めて重要ですが。選挙後も組織活動は続けます。勝利を目指すアジェンダがあるからこそ、組織活動を続けるのです。

私たちが交わした約束は、必ず守らなければなりません。共に、家賃を凍結し、バスを高速かつ無料で運行し、誰もが平等に保育サービスを受けられる社会を実現します。私たちはこれらを、共に実現します。

投票したらあなたの仕事は終わったと誰かに言われたら、それはまだ始まりに過ぎないと言いましょ。

なぜなら、4 人に 1 人が貧困に陥っている都市において、9 年連続で学校に通う 10 万人の子どもたちが家を失った都市において、50 万人の子どもたちが毎晩空腹のまま眠りにつく都市において、尊厳が可能であるだけでなく、すべてのニューヨーカーにとって現実のものとなるためには、私たち全員の協力が必要だからです。

バーニーの素晴らしいところの一つは、彼が政治活動を始めたどの年を見ても、同じことを言っていることです。写真が白黒であろうとカラーであろうと、それが所得格差の問題であることは誰の目にも明らかです。正義、そして尊厳の問題なのです。

今こそ、私たち全員が、自分たちがふさわしい世界を実現できる人間であると認識すべき時です。

今日、バーニーは私にこう言いました。「人は誰も孤島ではない」。私たちは皆、誰かがこの闘いをもたらしたからこそ、この闘いの中にいるのです。そのことを心に留めつつ、今こそ私たちがこの闘いに加わるだけでなく、先導する番なのだと認識しなければなりません。今こそ、私たち全員が、自分たちがふさわしい世界を実現できる人間であることを自覚すべき時なのです。

そして今、私たちはこれが世代を超えた闘いであることを明確にしなければなりません。これは一部の人だけ、若者だけ、少数の人々だけ、人生やキャリアの始まりにいる人だけのための闘いではありません。これはすべての人にとっての闘いです。すべての人にとっての闘いなのです。なぜなら、これはすべての人々に関わるからだからです。

私たちは私たちのビジョンについて語ります。それは普遍的なビジョンです。名前や出身地、宗教、身分などを尋ねるようなものではありません。ただ、私たちに加わってほしいと願っているだけです。